

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会産業建設分科会		会議場所 第2委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成23年9月21日(火曜日)		開 議 午前 10 時 30 分
			閉 議 午後 4 時 40 分
出席委員	◎西口 ○井上 福井 馬場 藤本 菱田 湊 小島		
出席理事者	大坪上下水道部長、赤間上下水道総務課長、石田水道課長、森下水道課長、亀谷年谷浄化センター所長、長野上下水道総務課参事、桑原水道課参事、阿久根下水道課副課長、増田上下水道総務課係長、湯浅経済部長、大西農政課長、堤農林整備課長、竹内国営事業推進課長、船越商工観光課長、辻村農政課副課長、谷口国営事業推進課参事、奥村商工観光課参事		
出席事務局	三宅		
傍聴者	市民 1 名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

10 : 30

- 1 開議 (西口委員長あいさつ)
- 2 日程説明 (事務局)
- 3 付託議案審査及び事務事業評価選定事業審査

10 : 35 ~

(上下水道部入室)

大坪上下水道部長あいさつ

10 : 37 ~

◎平成22年度亀岡市上水道事業会計決算認定 (第20号議案)

○上下水道部担当課長順次説明 (歳出・歳入一括)

11 : 05 ~

[質疑]

<馬場委員>

- ① 料金改定については、その効果がでているので2段階の値上げ方式は必要なかったのではないかと。
- ② 有収率90%を超えるための努力は。
- ③ 徴収業務委託の効果はどうか。

<上下水道総務課長>

- ① 適正な給水原価の回収と累積欠損解消の目的から2段階の改定は必要である。
- ② 有収率90%を目標値として、さらに率を高めるよう努力している。
- ③ 4会計包括的にみると収納率は徐々に上がっている。コストダウン、市民へのサービス向上の目的に沿って業務を行っている。

<馬場委員>

①について、P23、事業費用については、例えば支払利息及び企業債取扱諸費などは通常の建設事業としてやればよく、公営企業会計の手法をとって、給水原価をだしていることが問題ではないか。

<上下水道部長>

利用者1人当たり平均116.97円の給水単価に対し給水原価は127.36円であり、原則は給水単価と給水原価はイコールになるべきもの。累積赤字もあり、2段階改定は必要である。公営企業会計において支払利息等は、費用として利用者から回収する経理となっている。

<井上副委員長>

畑野町の未普及地域解消事業により赤字になることが心配されるが、布設後の収支の見通しは。

<上下水道部長>

900戸程度の収益はあるものの、加圧ポンプ等の経費や減価償却費等により経常収支では2、3千万円のマイナスが予測される。

<井上副委員長>

赤字が減っていかない傾向であるが、これ以上の値上げがないよう要望する。

<福井委員>

① 管渠の消耗について、付け替えの方針、見通しは。

② 亀岡の水道水は評価が高いので、もっとPRし、亀岡の名物となるよう望む。

<水道課長>

① 本市の水道管の全長は496kmあり、老朽管については年次計画的に対応している。

<上下水道総務課長>

② あらゆる広報を通じてPRに努めていきたい。

<湊委員>

① ボトル缶についての今後の計画は。

② 徴収委託業務について、経費的な効果と今後の方向性は。

③ 畑野町の事業に係る国庫補助金のトータルはどれほどか。

<上下水道総務課長>

① 22年度に1万本、今年度は被災地に5千本を送ったことから、さらに1万本製造し、計2万本を製造したところであり、9月1日現在、6764本を保有している状況。今後も様子を見て本数を増加させたい。

② 効果としては、平成19年度以降3カ年で4200万円程度の効果がでていいる。今後も包括委託する方向である。

<水道課長>

③ 1億9153万円である。

<湊委員>

① ボトル缶の製造経費が高く、また備蓄性にも疑問がある。例えば2リットル缶にするなどよりよい方法はないのか。

② 国庫補助金は単年度ではなくトータルで市負担と住民負担と合わせて教えてほしい。

<上下水道総務課長>

① ボトル缶は備蓄水を中心としておいしい水の啓発、観光PRを目的としていることから、広報の啓発に努めていく。

<水道課長>

② 平成25年度までの計画の中で36億円の規模である。内訳としては国庫補助金1/3、府補助金1/10、市補助金1/3、残りが地元負担金である。

<上下水道部長>

市は補助金ではなく出資金で支出している。

<藤本委員>

徴収委託業務について、収納率の低下に対して効果があるのはどういうことか。

<上下水道総務課長>

民間委託した後の収納率は全体的には年々増加している。平成20年度では0.24%増、21年度では0.51%増、平成22年度では0.87%増である。

<井上副委員長>

1期分から料金改定をした場合はどれぐらいの純利益がでるのか。

<上下水道総務課長>

2500万円程度の収入が見込まれる。

11:27~

◎平成22年度亀岡市下水道事業会計決算認定（第21号議案）

○上下水道部担当課長順次説明（歳出・歳入一括）

11:50~

[質疑]

<菱田委員>

料金改定、企業努力により処理原価を抑えて経営状況は改善されているが、それは今後も見込めるのか。

<上下水道総務課長>

経営状況を改善するためには、2段階目の改定は欠かせない。24年度より詳細に調査、資料を作成し、25年度の改定に臨む。それ以降の見通しについては、現時点で不明である。

<上下水道部長>

支出の増える要素としては減価償却である。利益が出たら、値下げをしたらよいという短絡的なものではなく、企業会計では、利益は資本的支出の元金に充てるしくみであるので理解願う。原価差を縮める努力が必要である。

<藤本委員>

未処理欠損金については徐々に改善していかなければならないが、料金改定により徐々に経営状況が改善されている。このことを「水だより」等で市民にわかりやすく説明するよう広報に努められたい。要望。

<馬場委員>

① 9P、受益者負担金の未収について、どのような状況か。

② 20P、有収率の減少の原因は。

③ 27P、修繕費について、マンホールの高さ補正を実施するのは集中した場所か分散した広範囲な場所か。

④ 33P、固定資産購入費について、災害用トイレは上下水道事業でもつよりも、本来、防災関係でもつ必要があるのでは。その協議はどうなっているのか。

<下水道課長>

- ① 受益者負担金の収納率はわずかであるが改善している。440円が880円になった影響はあるが、収納率向上に努めている。
- ② 有収率は90.5%で昨年度より若干下がっているが、大雨による不明水の流入や管の老朽化への対応により有収率に影響がでる。
- ③ 市内に点在する箇所について、道路改良時の工事に合わせて実施しているほか、交通量の多い箇所については、傷んでいなくても古い蓋は随時取り替えて維持管理に努めている。
- ④ 下水道の役割を示す意味でPRを兼ねて実施している。全体的な事業については関係部署で推進するよう協議していく。

<馬場委員>

単価の優遇措置についての検討は。

<下水道課長>

農村部については猶予措置がある。

<井上副委員長>

大切なライフラインであるが、料金収納に関して、納付から処分の流れは。

<上下水道総務課長>

2週間の納付期限の後、20日以内に納付がない場合、督促状により催促する。4ヶ月経過しても納付がない場合は、給水停止の予告を行う。生活状況等を勘案して猶予期間を設けて給水停止を執行する。困窮し自殺に至る場合もあるので、慎重に対応している。

<湊委員>

今も大変な大雨であるが、このような大雨被害時にマンホールから水が噴出しているのを目にするが、処理場の能力はどれほどなのか。

<年谷浄化センター所長>

処理できる許容量を超える水がきた場合には、一旦溜めて沈殿物を取り除いて適切に処理をして放流する。それを守らなくてはならない状況がある。

<下水道課長>

数値で示すと、現在は41,900、通常は25,000程度の処理能力であり、今の状態で満杯ギリギリぐらいである。これ以上雨が降ると道路が冠水し、大量の水がくるので、その場合は、簡易消毒のうえ、放流することとなり、心配している。

～12:10

[休憩]

13:10～

◎平成22年度亀岡市地域下水道事業特別会計決算認定（第16号議案）

○下水道課長説明（歳出・歳入一括）

13:30～

[質疑]

<湊委員>

金岐の浄化センターの跡地利用について、教育委員会が活用しているのはなぜか。

<下水道課長>

施設の跡地利用については、受益者の公益性、行政的な使い方が必要とされており、地元では市で活用してほしい意向であったことから、現在教育委員会が活用してい

る。また消防水利として、防火水槽としても利用されているところである。

<馬場委員>

- ① 半国地区の不明水の調査結果による今後の方向は。
- ② 東別院小泉の有収率が低いことの把握は。
- ③ 全体的な機能低下の原因は。

<下水道課長>

- ① 予算要求し対応していこうとしているところである。
- ② 状況を確認しながら順次進めていく。
- ③ 老朽化による。修繕、取替えについては、機能診断により計画的に進めていく。

13:35～

◎平成22年度亀岡市簡易水道事業特別会計決算認定（第13号議案）

○水道課長説明（歳出・歳入一括）

[質疑] なし

13:47～

■事務事業評価審査

◎「維持管理費（簡易水道事業）」

○水道課長説明

13:59～

[質疑]

<馬場委員>

有収率については、めざましい効果がでていますが、執行率33%の遅れは、住民合意の関係や技術的な面、国府の補助金など、主な原因は何か。

<水道課長>

川東簡易水道については、下水道整備事業と受益者が同じことから、下水道工事の進捗と合わせて事業を進めているためである。

<馬場委員>

住民合意のうえでそうなっているということか。

<水道課長>

水道だけを単発で先に進めるわけにはいかない。

理事者退室（14:03）

14:03～

評価

「維持管理費（簡易水道事業）」

[各委員、評価シートの評価結果を報告]

<西口委員長>

事務局から集計の結果報告を。

<事務局>

個人総合評価は48点でA評価となる。

<西口委員長>

分科会評価としてどのように評価するか。

<藤本委員>

継続とされたい。

<西口委員長>

分科会評価としては継続とすることでよいか。

<了>

<西口委員長>

評価の意見や指摘事項について各委員ご意見を。

<馬場委員>

明許繰越があるが、有収率のめざましいアップを評価する。

<藤本委員>

工事の執行率が悪く、翌年度繰越となっているが、継続し1日も早い執行完了を望む。

<湊委員>

下水道との兼ね合いで進捗状況が遅いが、今後計画的な維持管理を望む。

<西口委員長>

各委員の意見をまとめる。後で報告するので確認願う。

<了>

～14:10

[休憩]

14:25～

(経済部入室)

湯浅経済部長あいさつ

14:30～

◎平成22年度亀岡市一般会計決算認定(第11号議案)所管分(歳出)

○経済部担当課長順次説明

15:28～

[質疑]

<井上副委員長>

① 13P、畜産振興経費における養豚場のリキッドフィーリングシステムについて、飼料の調達先はどこか。

② 養豚場の現在の状況は。

③ 24P、金融対策経費における利子補給の昨年の実績及び申請、審査の基準は。

④ 七谷川の公園のLED灯は赤っぽいので、霧の中では火事と間違えられたことがあり、街路灯の設置にあたっては場所と色を考えてほしい。要望。

<農政課長>

① 飼料は入札により飼料会社から調達している。

② 9月16日時点で758頭。

<商工観光課長>

- ③ 平成21年度の利子補給の実績は延べ534件、実質498件である。件数としては減少している。保証料は平成21年度延べ148件、実質142件であり、こちらも減少している傾向である。金融機関にまず相談されるので、そこから市としては、事業所を認定する行為をとっている。色々な要件はあるが、クリアしているものは全て認定している。

<菱田委員>

- ① 小豆の生産振興策は。機械化されているが収穫は難しい課題がある。生産振興と消費拡大の連携、取組みは。
- ② 丹波振興として中丹連携した動きはあるか。
- ③ 庁舎地下レストランにおいて亀岡産米の導入は。
- ④ 災害復旧において里山に隣接した田畑や林道に対する補助は。

<農政課長>

- ① 小豆の生産振興については、1反あたり3千円の補助から緊急対策として6千円の補助に拡大している。小豆の品評会の実施などにより、生産者の努力、意欲を引き出していきたい。
- ② 「大丹波」という取組みがされている。現在は観光を中心にしたものであるが、亀岡産の振興という点で連携していきたい。
- ③ 地元産米であっても、JA京都に出荷すると全て京都産米となる。JA以外なら可能であるが、地域の名前をつけた地元の米の取組みもあり、どのように整理するか課題である。

<農林整備課長>

- ④ 災害復旧について、林道の路肩崩壊や農地への土砂流入などがあるが、40万円以上の工事基準で審査している。

<馬場委員>

- ① 8P、食育学習促進事業における地元野菜の学校給食導入の11校の内訳は。また1校あたり5万円の補助の内容とその反響は。
- ② 20P、有害鳥獣対策について、防除柵の面的な整備は。
- ③ 21P、林道管理事業について、西長尾線の維持管理経費は市民の森と関係あるのか。

<農政課長>

- ① 小学校では、安詳、西別院、曾我部、吉川、本梅、大井、千代川、川東、詳徳の9校、中学校では別院、詳徳の2校である。補助金は、地元農家の1反あたりの人件費相当分、肥料代等に充てるためのものである。体験学習を通じて子どもたちからはおいしいと反響あり、作ることへの喜びと将来の地産地消につながるものと感じている。

<農林整備課長>

- ② 防除柵の設置については、営農組合、農家組合など地域で取組み、要望されているところである。集落全体を囲む方法も考えているが、川、道は防除柵を設置できないため、捕獲の面に対応しているところである。バッファゾーンの整備については、本梅町東加舎で実施しているが、間伐などにより見通しがよくなり、効果は出ている。
- ③ 市民の森とは関係ない。

<馬場委員>

- ① 小学校での実施を9校から拡大する方向は。
- ② 防除対策について何か具体的な手立ては。

<農政課長>

- ① 拡大する方向で取り組んでいく。南つつじヶ丘小学校などは、近くの農地を探す必要があり、教育委員会に働きかけていく。
- ② 防護と駆除の両面に対応しているが、難しい状況がある。国の農地・水保全や中山間などの補助事業を活用して地域での取組みを進めていく。

<藤本委員>

- ① 7 P、日替わりシェフレストラン事業は採算がとれているのか。旧町の空店舗などの活用を検討しているのか。
- ② 24 P、魅力ある商店街のにぎわい創出事業について、北町、柳町のひな祭りについて、さらに今後、西町、内丸町、追分町、湯の花温泉街も連動させ、城下町散策ひな祭りなどに拡大して取り組む考えはあるのか。

<農政課長>

- ① 採算はとれている。昨年度実績では1日あたり平均30名、290日開催で年間約9000人が利用された。対面式のレストランのほうがよいのではと検討しているが、マツモトの空き店舗を活用するとすると相当の改造費用がかかってしまう。ただし、旧町の空き家、空き店舗の活用した地産地消の推進については、今後拡大する方向に取り組んでいきたい。

<商工観光課長>

ひな祭り事業については、各町つないでいこうという取組みであるので、推進していきたい。各観光スポットとの連携も図っていきたい。

<湊委員>

- ① 17 P、国営ほ場整備事業について、当該集落農道はどこか。
- ② 25 P、旧大谷鉦山について、観光の角度からの調査経過はどうなっているのか。

<国営事業推進課長>

- ① 千歳町千歳地内で計画している。府道宮前千歳線、以北、小口に向かっての950mの区間で進めている。

<商工観光課長>

- ② 封鎖されている。観光調査をしたことは把握していない。委員指摘により、調査する。

<小島委員>

27 P、観光地環境施設整備経費に係り、国道372号の湯の花温泉に向かう道中について、観光地という位置付けから、佐伯灯籠の延長線上として街灯設置はできないか。

<商工観光課長>

ハード面整備の関係については、事業課に働きかけをしている。商店街振興の位置付けであれば支援ができるが、地元での整理が必要。

<経済部長>

灯籠は、地元での協賛金により設置されたもの。スリガラスでは街灯としては明るくないため、協議をした経過がある。

～16:05

[休憩]

16:10～

◎平成22年度亀岡市一般会計決算認定（第11号議案）所管分（歳入）

○経済部担当課長順次説明

[質疑] なし

16:25～

■事務事業評価審査

◎「雇用対策経費、ふるさと雇用再生特別交付金事業経費、緊急雇用創出事業経費」

○商工観光課長説明

16:34～

[質疑]

<小島委員>

5P、外国人観光客への農業体験事業における雇用については、色々な国から来られるのに、語学的にも1名の雇用で対応が可能なのか。

<商工観光課長>

アメリカ東部からのツアー客であったので、語学的な問題はなかった。

<商工観光課参事>

現在は東日本大震災の影響によりツアーが中断しているが、雇用は継続させており、観光案内の準備等をしているので、了解願う。

<小島委員>

アジア圏も含め、国際的な亀岡の農業体験となるよう、色々な国との対応策を。要望。

<馬場委員>

- ① 緊急雇用から常雇用への開拓の努力は。
- ② 緊急的な面での雇用募集の方法は。
- ③ シルバー人材センターとの整合は。

<商工観光課長>

- ① 緊急雇用は6ヶ月単位で最長1年、ふるさと雇用については、継続性のある事業を精査する中で協議していきたい。
- ② ハローワークに募集をかけて面接により雇用をしている。
- ③ 法的な手続きの中で雇用を図る趣旨であることから、基本的にはハローワークを通じて雇用を図っている。

<西口委員長>

本日はこの程度とする。明日、質疑を再開する。

～散会 16:40